



●助川敏弥 Toshiya SUKEGAWA (作曲)

1930年生まれ。東京芸術大学卒業。在学中に日本音楽コンクール第一位ならびに特賞。1960年、文部省芸術奨励賞。1971年、文化庁芸術祭優秀賞。1973年、国際放送作品コンクール「イタリア賞」NHK参加作品大賞。

主要作品、ピアノのためのタペストリー、ピアノ曲「山水図」、ピアノ小曲集「ちいさな四季」、被爆ピアノとオーケストラと電子音による「おわりのない朝」、歌曲集「夕顔」、「薔薇の町」、合唱曲「白い世界」、「ちいさきいのちのために」等。環境音楽の分野では鹿島建設本社ビル、技術研究所、道路公団東名高速「足柄SA」館内音楽等を制作。日本音楽舞踊会議 代表理事、月刊・季刊「音楽の世界」編集長を務めた。2015年逝去。



●深沢亮子 Ryoko FUKASAWA (ピアノ)

12才で全日本学生音楽コンクール小学校の部全国1位。15才で第22回日本音楽コンクール首位受賞。17才でウィーン国立音楽大学に留学、ガスタイン賞を受賞。1959年同校を首席で卒業。翌年、ウィーン楽友協会ブラームスザールにて海外デビューリサイタルを開催し絶賛される。1961年ジュネーヴ国際音楽コンクールで最高位入賞(1位なしの2位)。以来ヨーロッパや南米、アジアの主要都市でリサイタルや室内楽、オーケストラとの共演等、国際的な舞台で活躍。日本の作品も内外に数多く紹介する。又、度々ウィーンのベートーヴェン国際ピアノコンクール、他の審査員を務める。TV、ラジオ出演、著書、楽譜出版、CDも多数。師 永井進、G.ヒンターホーファー教授。1995年千葉県文化功労者、2005年東金市特別功労者、日本音楽舞踊会議代表理事、(公財)国際開発救援財団理事。



@Akira Muto

●宮谷理香 Rika MIYATANI (ピアノ)

桐朋学園大学卒業、同研究科修了。95年ショパン国際ピアノコンクール第5位入賞、翌96年楽壇デビュー以来、ソロを中心に1000回を超える活発な演奏活動を展開。海外では、国際交流基金からポーランドとスペインへの派遣、ワルシャワ、ドゥシニキショパンフェスティバル、パリ・サルブエイエル、ウィーン、チェコ、中国蘇州等に招聘。スロヴァキアフィル、ワルシャワフィル、国内主要オーケストラ等との共演、室内楽、演奏指導まで多彩に活躍。豊富な録音の評価も極めて高く、直近のCD16枚が連続でレコード芸術特選盤に選出。日本ショパン協会賞、飛騨古川音楽大賞新人賞、石川県文化奨励賞など受賞多数。曲種を鮮やかに生かす第一級のピアノイズムと作品への非凡な親和力、気品と洗練の歌心で高い芸術性をもたらすコンサートピアニスト。桐朋学園芸術短期大学講師。平成音楽大学教授。



©T.Tairadate

●實川 風 Kaoru JITSUKAWA (ピアノ)

2015年ロン・ティボー国際コンクール(フランス)において第3位・最優秀現代曲演奏賞を受賞。2016年カラーリョ国際ピアノコンクール(イタリア)にて第1位を受賞。パッサを中心としたリサイタルプログラムに加え、邦人作曲家の作品再演・新作初演の機会も数多く、現代作品の演奏に意欲的に取り組んでいる。

これまでに、別府アルゲリッチ音楽祭・上海音楽祭・ソウル国際音楽祭・ノアン・ショパンナイト(フランス)・アルソノーレ(オーストリア)などの国際音楽祭に客演。

東京藝術大学を首席で卒業し、同大学大学院(修士課程)修了。グラーツ芸術大学(オーストリア)ポストグラデュエート課程修了。2024年4月より東京藝術大学器楽科ピアノ専攻専任講師を務める。



●安田謙一郎 Kenichiro YASUDA (チェロ)

斎藤秀雄、ガスパー・カサド、ピエール・フルニエに師事。1965年第34回日本音楽コンクール第1位を受賞。翌年、ロストロポーヴィッチ、フルニエに勧められ第3回チャイコフスキーコンクールを受け、第3位入賞。69年ルツェルン音楽祭合奏団のソリストとして日本、ヨーロッパ、アメリカ、カナダの演奏会に同行する。74年香港、サンフランシスコにて小沢征爾と共演。75年より桐朋学園で後進の指導にあたる。水戸室内管弦楽団のメンバーとして活躍。86年に結成した安田弦楽四重奏団、80曲に及ぶハイドンの弦楽四重奏曲全曲演奏、ベートーヴェン年代順室内楽作品の演奏会などのコンサート活動を続け、高い評価を得ている。

日本現代音楽協会、日本音楽舞踊会議、日本・ロシア音楽家協会会員。



●道下京子 Kyoko MICHISHITA (音楽評論)

桐朋学園大学作曲理論学科(音楽学専攻)卒業、埼玉大学大学院修士課程文化科学研究科(日本アジア研究)修了。文芸活動は高校時代から。大学卒業後、NHK交響楽団で編集などのアシスタントに3年間たずさわった。大学院在学中に、共著「ドイツ音楽の一面——フイツツナーとジャズの時代」を出版。「音楽の友」「ムジカノーヴァ」「ショパン」のレギュラー執筆。webを含む新聞、雑誌、共著、コンサートのプログラムやCDのライナーノートなど多数執筆。特にピアノのジャンルでは高い評価を得ている。審査や選考にも携わる。



●橘川 琢 Migaku KITSUKAWA (作曲)

作曲を三木稔、助川敏弥の各氏ほかに師事。文部科学省音楽療法専門士。これまでに、文化庁芸術祭参加公演、文化庁「本物の舞台芸術体験事業」、文化庁「文化芸術による子供の育成事業」「八ヶ岳北杜国際音楽祭」「Tokyo to New York」「TEDx Tsukuba」、「Heart to Art」テーマ曲(東京都杉並区教育委員会後援)、映画「淡墨桜と桜守」(岐阜県本巣市・本巣市教育委員会製作、2023年)等に作曲作品が採択される。作品はマンハッタンTV局番組や国内FMラジオで特集され、ベルギー他、国内外で出版・配信されている。日本音楽舞踊会議理事、2016年より季刊「音楽の世界」(1962年月刊誌として創刊、2015年より季刊)編集長。